

こどもとチューリップ

附屬幼稚園 船田ふさ

時折こどもの話すこばに詩味の溢れてゐるものがあります。さうしたこばを少しづつ書きこつてゐましたが、

この頃は子供達自身で自由に片假名が書ける様になりましたので、子供達はめい／＼で何かさおもふまゝを書いて居ります。書かせる、さいふ事は幼稚園ではいけないのかも知れませんが、兵隊さんに數回慰問文を差上げたのが習慣になりましたものか又は單に覺えたい盛りの爲か、さても喜んで書いて居ります。

此頃こども達のノート(自由に何でも書かせます)にはチューリップの事が大分書いてあります。チューリップはあの赤線の單純な強い色が印象鮮明で子供に好かれるらしく、自由にお花を畫くさいへば先づチューリップさいふ程でございます。そのチューリップがこども達の家の南向きの庭で芽を出しはじめました。又花屋の店頭であの鉛筆の先の様なこつぼりした首をかしげる様になつたものですか、こども達は喜んで描いたり、話したり致して居ります。書いたものの中のは大分調子の良いのもありますが凡て天

衣無縫、自由自在詩です。少し拾つてみます。

チューリップサン／＼

ナアニ

モウハルヨ

サヨカイナ

チューリップハオドロイテ

メチサマシテイヒマシタ

此は七つの子で大變空想力の強い子です「サヨカイナ」等表現するあたり此の子の滑稽な或る性質を良く出してゐる様に思ひます。

オウチニハチューリップガウメテアルノ

コヤシタイッバイヤリマシタ

ハヤクメガデルトイイナア

此はやはり七つの女子で平常は口数の少ない子ですが書く時は仲々よく發表します。球根を埋めた時から關心を持つてゐたのでせう。

チユーリップノハナガサキマシタ
 バットキレイニサキマシタ
 オユニハイツテキタノデス
 チユーリップノハナガサキマシタ
 キレイニキレイニサキマシタ

これも七つの女の子、チユーリップを開かせようとお湯につける等現代的小隊木の匂が致します。だゞ此方は、何の焦慮もなく、無邪氣に科學したまです。

アオイチユーリップノハツバ
 オハナハアカイチユーリップ
 オハナバタケニウエマセウ
 キレイニタクサンウエマセウ

チユーリップの葉つばの色は緑を知らず赤いお帽子青い服に歌ふ爲か、よく青いを申します、この子は八つの子でもしては極めて浪漫的な女の子です。

チユーリップハキレイダナ
 ソレニカハイイナ
 ホントニカハイイナ
 チユーリップノオウタモ
 オモシロイナア

チユーリップのおうたさいふのは、チユーリップ兵隊の事です。

ワタシハチユーリップデス
 マダマダメガデナイ
 ソノウチダンダンダシマス
 ダガハナハナカナカサカナイ
 ダンダンハルガチカズイテ
 シガツガキタラ
 ソノウチハナガサク

これは七つの男の子、かう書いてゐるに際限がありませんからこれで止めますが、こども達が何か寫生をするお話しも書くさいつて直にこんなに書いてゐます。よく指導すれば詩藪豊かな人になるのでせうけれど私はたゞ感心してきゝ又みてゐる許りでございます。